漫才「ごはんのうた」２分３０秒

カブ「こんにちは。ボクはカブスカウトです」
ビバ「うーん」
カブ「なんや、はよなまえ言わんと」
ビバ「うーん」
カブ「はずかしいんか」
ビバ「うーん」
カブ「そうか。じゃあ、ボクのなまえはうーんと言えば」
ビバ「こんにちは。ボクは、うーんです。ちゃうがな。ぼくはビーバースカウトだよ」
カブ「最初からそう言えよ。そんじや、始めよか」
ビバ「なにを？」
カブ「いまから、漫才やるんだよ」
ビバ「漫才、そんなの知らないよ」
カブ「いいの、いいの。こうして話してたら漫才になるから」
ビバ「ほんまかいな、そうかいな、へーー！」
カブ「その調子や、じゃあ、初めからやろか。
　　あのな、ごはんの歌知ってるやろ」
ビバ「うん。」
カブ「そんならな、ビーバースカウトはごはんの歌な、ちゃんと歌えるんか？」
ビバ「歌っているよ」
カブ「ほんまかなあ？じゃあ、歌ってみろよ」
ビバ「あれはな、ごはんの歌はな、ごはんを食べるときに歌うんだよ」
カブ「そうだよ、だから歌ってみろよ」
ビバ「だからさ、ごはんを食べるときだよ、いまはごはんじゃないからだめ」
カブ「しょうがないな、もう歌はいいよ」
ビバ「ごはんだ、ごはんは、まだたべない」（途中で茶々がはいっても歌う）
カブ「　　やるじゃん。　　でも、やっぱりたべないのか」
ビバ「かぜもさわやか、こころは重く」
カブ「　　なんで、こころが重いんだ、軽くやらなくちや」
ビバ「みんなげんきだ、さあ、遊ぼう」
カブ「　　そこは食べようだろ、遊んだらいかんがな」
ビバ「だって、いま、ごはんじゃないもん」
カブ「おまえ、めっちゃ、時間にこだわっているな」
ビバ「(間をおいて、大人っぽい声で）ところで、なんでごはんのうたなんだ？」
カブ「あれ、なんか言った？びっくりしたわもう。　　それで思い出したわ」

ビバ「なにを？」
カブ「ごはんのうたでびっくりしたこと」
ビバ「思い出すの長いなあ。」
カブ「わるい、わるい」
ビバ「それで？なにを？」
カブ「あのごはんのうたな、日本中で歌ってるで」
ビバ「(大きな声で）うわっ、びっくりした」
カブ「大きな声だな、びっくりしたわもう。　　それで思い出したわ」
ビバ「なにを？」
カブ「ごはんのうたでびっくりしたこと」
ビバ「思い出すの長いなあ。」
カブ「わるい、わるい」
ビバ「それで？なにを？」
カブ「あのごはんのうたな、日本中で歌ってるで」
ビバ「(大きな声で）うわっ、びっくりした」
カブ「大きな声だな、びっくりしたわもう。　　それで思い出したわ」
ビバ「なにを？」
カブ「ごはんのうたでびっくりしたこと」
ビバ「思い出すの長いなあ。」
カブ「わるい、わるい」
ビバ「それで？なにを？」
カブ「あのごはんのうたな、日本中で歌ってるで」
ビバ「(大きな声で）うわっ、びっくりした」
カブ「大きな声だな、びっくりしたなもう。」
ビバ「ちょっとまって。ちっとも進まへんよ」
カブ「えっ、それはまたまたびっくりし　た　な　も　うーーー。」
ビバ「もういいかげんにしなさい」
カブ「ちゃんちゃん」
二人「どうもありがとうございました」